

10月の園だより

令和6年9月30日

杉並区立西荻北子供園

園長 須田 なぎさ

「幼児期に大切にしたい学び」

副園長 小森 三奈子

いよいよ、10月1日から杉並区立保育園・子供園全園で、登降園管理システムの本格的運用が開始されます。保護者の皆様におかれましては、2日間のテスト運用にご協力いただきありがとうございました。このシステムを導入・活用することで、保護者のスマートフォン等から欠席・遅刻の連絡、園からのお知らせの受領等が可能となり、利便性の向上に繋がるものと考えております。不明点などありましたら、お気軽に職員までお尋ねください。

さて、日々の保育の中でも時代は変わり、年長組では、子どもたちがiPadを利用してリレーのBGMや、遊びの中で必要な曲などを流しています。保育者が操作して見せると、子どもたちは、すぐに使い方を覚えて自分たちで扱っていました。また、遊びの様子を動画撮影したものを自分たちで見て振り返ったり、イメージを共有したりすることなどにも、使用しています。

このように情報機器を保育の中で活用する一方、先生たちは、幼児が生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験も大事にしています。今は便利な世の中で、検索すると、すぐに情報を得ることができます。しかし、幼児期は心を動かされる体験を通して遊びに没頭する中で、多くのことを学び、様々な力を獲得していくことが大切です。ですから、先生たちは幼児が興味や関心を追求できる環境や、遊びの中の学びを更に深めたり発展させたりできるような環境の工夫をしています。

例えば、先日、年中組では先生が用意した青の色水と黄色の色水をつかって、色水遊びを楽しんでいました。子どもたちは、経験を通して2つの色が合わさると緑の色水ができることに気付いていきます。

先生が透明度の高いきれいな色水と透明な容器をたくさん用意したことで、子どもたちは、色のきれいさを感じながら、繰り返し2色を混ぜて色水をつくっていました。そのうち、同じ緑でも、混ぜる色の割合によって、濃淡の違う緑色の色水ができることに気付きました。

そこで、先生は、つくった色水を並べることができる場として、色水の濃淡が分かりやすく、色のきれいさを感じられるよう、白いシートを敷いた机を用意しました。すると、子どもたちは濃淡の違うボトルを並べ、色の美しさや違いを感じたり、感じたことを言葉で伝え合ったりしていました。さらに、「次は、こうしたらどうなるかな？」と新たな興味や関心がわいて、混ぜる色や分量を変えて色水をつくる姿が見られました。また、色水の入ったペットボトルを並べて、太陽の光を当てると色のついた影がキラキラと光る様子や、2つの色水の影が合わさると、違う色の影ができることなども発見していました。このように、先生が幼児の楽しんでいることを読み取り、意図的に環境を用意したことで、子どもたちは興味をもって遊び始め、その中で多くのことを学んでいました。

令和6年度の西荻北子供園 園内研のテーマは「幼児の“やりたい”を支える環境の工夫 ～試したり工夫したりして遊ぶ姿に焦点を当てて～」です。今後も研究を重ね、子どもたちが幼児期に大切な『主体的な遊び』と『遊びを通した学び』ができるよう、環境の工夫に努めてまいります。

